

第4回 富山県ウッド・チェンジ協議会 議事概要

日時：令和7年11月10日（月）10:00～16:00

会場：県民会館704号室、YKKパッシブタウン第5街区、北陸銀行魚津支店

概要：

はじめにアドバイザーである(株)モリアゲ 長野代表から全国でのウッド・チェンジに関する話題提供をいただき、事務局から県の木材利用の取組みについて報告。

その後、今年度の取組として県で作成を予定している「富山県内 木造・木質化事例集」、リーフレット「富山県内での木造建築物の建て方～耐震編～」の素案について説明し、会員から意見をいただいた。

最後に、県内初の木造中高層建築物であるパッシブタウン第5街区及び、内装木質化の取組として北陸銀行魚津支店を訪れ、現地視察研修を行った。

【会長挨拶】（津田農林水産部長）

【議事】

（1）アドバイザーからのウッド・チェンジに係る情報提供

ウッド・チェンジの大前提

- ・カーボンニュートラル実現のためにもウッド・チェンジによる主伐再造林が必要となっている。

木造建築物の増加に向けた話題

- ・SHK 制度上で、木材利用による炭素貯蔵効果が新たに位置づけられる
- ・林野庁が『森の国・木の街』づくり宣言」に参画する自治体・企業を募集
- ・GX2040に向けた、建築物のライフサイクルカーボンの削減に向けての取組

森林の価値を高める話題

- ・30by30 達成に向けた、環境省による自然共生サイトへの支援促進の取組
- ・水源涵養機能の定量化手法が開発
- ・里山広葉樹利活用推進会議による再生に向けた提言
- ・東京では3人に2人は森へ行かない。幼少期の自然体験等で行きやすくなる。
- ・森林×企業の取組が進んでいる。

（2）県の木材利用への取組みについて（情報提供）

①県産材の利用に関する建築物木材利用促進協定の締結の状況について

- ・(株)ゴールドウイン、砺波地区木材組合、南砺市と R6.12.26 に締結（3 例目）

②県内の民間建築物における木材利用について

- ・木の香るとやまの街づくり事業についての事例紹介
- ・リーフレット富山県内での木造建築の建て方～防・耐火編～の紹介
- ・とやまの森づくり CO2 吸収・固定量認証制度の紹介

③今年度の木材利用に関する取組の紹介

（3）「富山県内 木造・木質化 事例集」の作成について（説明）

県内に数多くある木造・木質化建築物について纏めた事例集を作り、広く公開す

ることで、より多くの方に木を使う意識を高めたいと考えている。

(4)「富山県内での木造建築物の建て方 ～耐震編～」の作成について(説明)

昨年度は防・耐火編を作成しており、今年度は能登半島地震も受けて耐震編を作成予定としている。

(5)意見交換

○長野アドバイザー

作って終わりにしない取組が必要。ウッド・チェンジ協議会の会員一丸となって普及活動、営業活動をしていく必要がある。

リーフレットの配布先として商工会や経済同友会を想定しているとのことだが、ただ配るだけではなく、ウッド・チェンジの取組を一緒に見学に行くなど、ワンチームでの取り組みも必要ではないか。

○(有)建築科学研究所

リーフレット「富山県内での木造建築物の建て方 ～耐震編～」について、もう少し内容を柔らかくしたいとの説明があったが、構造という話題自体が硬い話であり、しょうがないのではないかと。配布先の想定が大事になると思う。構造で悩んでいる施主に対する、設計者等の営業ツールとして作成するのであればこのような形で良いのではないかと。

○ODAIKEN(株)

事例集に載っていた事例の中で、自宅の近くにある建物も知らない事例があったので、このような事例集があると良いと思う。

リーフレットは、ある程度硬い内容となっても良いのではないかと。

○(有)中嶋芸芸社

リーフレットは、今回「耐震編」ということで、耐震に関わるメリットのみが記載されているが、木材を使うことによる環境負荷の低減や木の温かみ、カーボンニュートラルに資する炭素固定など、他のメリットも記載してはどうか。

最終的にはコスト面での比較が重要になると思われるので、耐震等級3で比べた場合、補助金を活用した場合、などのコスト比較を記載してはどうか。

紙面の大きさの都合があるのであれば、詳細のデータはQRコード等でみられるようにするなどの工夫も良い。

○富山県素材生産組合

木材利用促進協定を結んでいるような大きなプロジェクトが動いていくと、山の活性化に繋がっているという実感が湧いている。ウッド・チェンジの取組は今後も進めてほしい。

耐震について詳しいことは、一般の方だけで理解するのは難しい面もあるので、専門的な方の理解をリーフレット等により深めていただき、その専門的な方にサポートをいただくことが大事なのかと思う。

県産材を使うには、理屈も大事だとは思いますが、関係性がとても大事になると思う。各地域の企業の方等は、地元のものを使いたいという気持ちがとても強い方も多い。47都道府県、日本中で木材が伐採時期を迎えており、ウッド・チェンジ

の取組を進めていかなければならないという事情は同じなので、なぜ地元の材を使う必要があるのか、というところを、県で進めている関係人口の話と同様に、県産材との繋がり、関係性を強めていくことが重要なのではないか。

○富山県木材組合連合会

「木造建築物に地域材を利用するための地域材利用支援ツール・経済波及効果試算ツール」というものを北海道立総合研究機構が公開しており、京都府などもそのツールを利用して経済効果を出している。富山県でも、金額的な指標、経済効果を出してアピールしていく必要があるのではないか。

富山県内に、JAS 製材工場は 15 社あったかと思うが、その中で製材の機械等級区分を持っている会社は、10 年前には 0 だったものが、今は 4 社、来年には 6 社になると思う。県内での木造物件の数が増えてきているからこそ、JAS を取る企業も増えているのだと思い、皆さんの取組には感謝したい。

事例集の中で、木造非住宅の物件に積極的に取り組んでいる設計者、施工者の紹介をするとの説明があったが、是非納材者についても紹介して欲しい。

○富山県森林組合連合会

リーフレットで、新耐震基準であれば木造家屋でも倒壊しないと言った図が添付されているが、非住宅の話なのであれば非住宅の例を挙げた方が分かりやすいのではないか。

事例集での木材を使う理由について、あるから使う、のではなく、長野アドバイザーからも話題提供されていたが、カーボンニュートラルの観点からも、炭素吸収量の少なくなった森林の主伐再造林を行い、再び育林することにより炭素固定を進めていくことが必要という表現をすべきではないか。

○ウッドリンク(株)

事例集は、どこにどんなものがあるかという、見える化されており、非常に良い取り組みだと思った。

リーフレットについて、民間で建築物を建てたりする際は、最終的には必ずコストの話になるため、そのような話題も必要だと考える。当社でも非住宅の木造事業を進めているが、「他構造より工期が短縮できます。」「他構造と比べて 3 割コスト減になります。」等とアピールしている。

○(株)鈴木一級建築士事務所

リーフレットについて、県木連さんの話でもあったが、JAS 材としての規格を使うことによる安心安全をアピールしても良いのではないか。また、当事務所への相談で、店舗のリノベーション、居抜き店舗の改修などの際の耐震補強の相談などが良くあるので、新築だけではなく、そういった改築の際のメリット等を記載しても良いと思う。

○タカノホーム(株)

リーフレットの「木造建築物は、地震に強い建築物です」と記した下に、木造家屋の倒壊率のグラフがある。旧耐震基準のものなどを記載するのではなく、新耐震基準の耐震等級 3 だけのものを載せるなど、木造建築物が、地震に強いと思えるような書きぶりが重要ではないか。

○(株)北陸銀行

普及啓発をしていく際に、配布、ホームページでの公開等と説明されていたが、一方的な資料提供になってしまう恐れがある。せっかくのものが、宝の持ち腐れとならないように、配布した後のフォローが必要ではないか。

素材生産組合さんも言っていたが、事例集もただ様々な建物が記載してあるだけだと、すごいなあ、だけで終わってしまうので、これを自分事として、関係性をもって、県産材を使う動機付けのような内容が記載されているとより良いと思う。

○県営繕課

事例集について、小地図のようなものも載せるとより分かりやすいのではない。また、冊子を毎年作るのは大変だと思うのでホームページ上で更新していくこととなるのだと思うが、更新しやすい方法を考えていくと良いと思う。

リーフレットに「木造建築は耐震性が高い。」という項目があるが、記載内容はそのようになっていない。同程度の耐震性能を見たそうと思えば、低コストで建てられる。そういう観点で耐震性が高い建物を建てやすい。と言うような表現が良いのではないか。

また、木造を選択する際の障害の一つとして、耐用年数が短いため、数十年スパンで考えた際のコストがかかってしまうという点も挙げられると思う。来年以降に作るリーフレットでの事例となるかもしれないが、税制上の耐久年数は何年だが、実際は何年使える、と言ったPRも必要なのではないか。

○県建築住宅課

事例集について、設計者の方の想いなど、木をどのような想いで使ったのかと言ったところを掘り下げてもらうとより、親近感や関係性を作っていけるのではないかと感じた。

リーフレットについて、「建築基準は変わらない」→「目標性能は変わらない」、「接合金具」→「接合金物」、「耐震ダンパー」→「制震ダンパー」など、表現で違和感を持ったものがあつた。

○農林水産部長・次長

更新されない古い情報が公開され続けるというのは逆効果となるので、作りっぱなしにならないよう、毎年更新するなら更新する、その時点とするならその時点とはっきり記載するなどしていくのが良い。

リーフレットは、営業ツールとして使うならばこれくらいの内容の方が良いとのご意見もあったが、施主となり得る方へ配布するのであればより分かりやすい方が良くとも思う。普及先の精査も必要か。

○森林政策課長

会員の方からのご意見を踏まえて

- ・普及する対象となる方を精査して、民間企業とのタイアップをしながら普及啓発できるようなものを作っていく必要がある。耐震編とのことだが、それに絡んだコストの面も書くなど、働きかけしやすい資料を作っていきたい。
- ・ネガティブなイメージをポジティブに、というイメージで作ったため、ネガ

ティブな表現も記載された形になっているが、ポジティブなイメージを中心に書いていく方が良い。

- ・いただいたご意見を踏まえて、発行前にまた会員みなさまに再度共有させていただきたい。

(5) 長野アドバイザーよりまとめ

ウッド・チェンジ協議会の立上げ当初からアドバイザーとして参加させていただいている。会員も徐々に増えており、取り組みも進んでいる。この流れを止めないことが非常に大事。ウッド・チェンジ協議会には市町村は入っていないが、作った事例集やリーフレットなどは市町村にも渡し、一緒に普及し広げていくことが重要。このウッド・チェンジ協議会のメンバー全員で営業活動を行うくらいの勢いでやっていきましょう。

個別の取組ではなく、みんなで県産材を使っていこうという取組を広げていくのが非常に重要で、ワンチームで全体で取り組んでいるというのが、使う側としても安心感が出る。全国各地の地域のオーナー企業さんに話を聞くと地域に貢献したいという気持ちが強い企業も多い。県産材を使うことで、富山県の豊かな森が残せて、地元が潤うんだという、そういう気持ちで、「しあわせる。富山」の取組など県の全体の施策と併せて、県全体で取り組んで、盛り上げていきましょう。

【現地見学】

(1) パッシブタウン第4・5街区

- ・北陸初の中高層木造建築物
- ・県産材利用促進協定の締結先

(2) 北陸銀行魚津支店

- ・県内における内装木質化事例
- ・県産材利用促進協定の締結先



上：協議会風景 下：北陸銀行魚津支店視察

